

特集：研究開発人材育成プログラム

インキュベーション委員会 委員長
柳橋 邦生



近年の急速なデジタル技術の進歩や世界的な感染症の流行による生活の変化など、昨今の技術革新や社会変化は、建築・住宅業界も非常に大きな影響を受けています。こうした多種多様な問題を解決するためには、適切に課題を設定し、的確なプロセスで技術開発を行い、その開発成果を普及・展開できる人材の育成が不可欠です。本コンソーシアムでは、組織管理者になられる前後の方を対象とし、技術開発に必要なノウハウを駆使されてきた先輩方の体験談や研究開発マネジメントの手法の講義、業種や分野を超えたチームによるグループワークで構成する5日間コースの研究開発人材育成プログラムを実施してきました。

受講後の感想や意見を聞いたところ、様々な研究開発の体験談や重要な考え方を聞いて参考になったことや、グループワークでは自身の考え方とは異なる意見を出し合うことが刺激になったことなど、多くの方々から好評を得ています。

インキュベーション委員会では、若手の方を対象として研究開発マネジメント手法の基礎知識の習得に特化した半日コースも実施しており、今後もこれらの人材育成プログラムを継続していきたいと思っておりますので、是非とも積極的な参加をご検討ください。

研究会開発人材育成プログラム 主査
田中 康夫



「研究者・技術者の人材育成の場が欲しい」との会員ニーズに応えるため実施してきました研究開発人材育成プログラム（5日間コース）は、2013年度から継続実施しており、今年度第1回を終えた時点で計20回、延べ297人の方々に受講いただいております。受講者のみなさまからは、講師の方々の実体験を通じた講義を聞き、グループワークの中で他社他業種の方々の考え方に触れ、自分なりの新たな「気づき」が芽生え、今後の自分の研究開発活動に活かせるといった感想を多く頂いております。

約2カ月（5日間）にわたる長丁場のプログラムで、初日は多少の緊張感の中でスタートしますが、回を重ねるごとに普段自社の中では味わえない他社他業種の方々とグループワークを通じ、終始和やかな雰囲気の中で活発な議論が展開していく様子を見てみると、本プログラムの大きな意義を毎回感じております。とりわけ最終日プログラム終了後の懇親会では、受講者同士大いに懇親を深め、その後も個別に連絡を取り合い、人的ネットワーク形成をしていると聞いています。

今後も参加者のご意見を参考に、一層の充実を図っていきたいと考えておりますので、積極的なご参加を検討いただければ幸いです。

■ 表1 研究開発人材育成プログラム（2023年度）

日程	13:00～14:30	14:40～15:40	15:45～16:50	16:50～17:30
1日目	(13:00～14:10) 【開会挨拶】 インキュベーション委員会委員長 【プログラムの説明】 【受講者自己紹介】	(14:20～15:20) 私の研究開発履歴書 藤井 俊二氏 〔Built Environment Research・大成建設OB〕	(15:25～16:40) グループワークの進め方説明 グループワーク 講師提出課題討議・意見等まとめ	(16:40～17:30) 各グループ発表・質疑応答 (17:40～18:40) 懇親会
2日目	(13:00～14:45) 【特別講義】（環境と建築） 村上 周三氏 〔東京大学名誉教授・CBRD特別顧問〕	(14:50～15:50) 私の研究開発履歴書 栗原 潤一氏 〔ミサワホーム(株)〕	(15:55～17:00) グループワーク 講師提出課題討議・意見等まとめ	(17:00～17:30) 各グループ発表・質疑応答
3日目	【技術マネジメントMOTの紹介】 出川 通氏 〔株式会社・インテグレーション〕	私の研究開発履歴書 飯田 毅氏 〔飯田技術士事務所・住友金属工業OB・元大阪産業大学教授〕	グループワーク 講師提出課題討議・意見等まとめ	各グループ発表・質疑応答
4日目	【特別講義】 （行動観察によるイノベーション創出） 小野 泰氏 〔株式会社オーグス総研〕	私の研究開発履歴書 安藤 達夫氏 〔安藤F&M・三菱ケミカルOB〕	グループワーク 講師提出課題討議・意見等まとめ	各グループ発表・質疑応答
5日目	【特別講義】 （住宅分野の政策課題と対応の方向性） 東野 文人氏 〔国土交通省〕	受講者研修レポート発表会 講評 インキュベーション委員会人材育成プログラム小委員会主査		(17:00～18:00) 懇親会

研究開発人材育成プログラム（5日間コース）

◆概要・目的

企業の技術開発力強化が重要課題とされ、研究者の人材育成ニーズが高まっている背景の中で、「研究者・技術者の人材育成の場が欲しい」との会員ニーズに応え、会員企業に共通する課題である将来を担う人材を育成することを目的としています。役職昇任前後の若手・中堅の研究者・技術者等を主な対象とし、研究開発チームマネージャーへのステップアップと人脈形成を目的として、以下に取り組んでいます。

・研究開発の進め方の習得

（市場の把握、研究課題の創出、ロードマップ策定）

・社内外ネットワークの構築、組織運営と人材育成の方法論の習得

・アイデア創出の方法、グループワークの進め方の習得

・参加者を5人～6人程度のチームに分け、様々な参加者とグループワークを実施

本年度のプログラムは表1に示していますが、講義とグループワーク並びに研修レポートから構成され、講義では、企業の研究開発に携わってきたベテラン研究者・技術者による研究開発の体験談「私の研究開発履歴書」と、国の政策動向、研究開発マネジメント・MOT（技術経営）、市場・マーケティング関連講義、村上周三特別顧問等による講演を実施しています。



研修レポート発表

◆懇親会

5回の開催の初回と最終回に懇親会を行い、受講者同士の懇親を深め、人的ネットワーク形成を図っています。研修プログラム終了後も個別に連絡を取り合い、業務にいかしているようです。今後の研究開発において他社とのコラボレーションが重要になる中で、益々必要となる活動と考えています。



懇親会

◆グループワークの内容

グループワークに、ブレインストーミング法、KJ法、デザイン思考等を取り入れ、アイデア創出におけるグループワークの方法を習得させています。研究開発プロセスに沿うかたちで、社会・技術動向・顧客ニーズへの気づき、研究開発目標の設定、研究開発の実施、人的ネットワークの構築といった課題に取り組んでいます。オンラインでの会議も想定し、WEB上で共同作業ができるコミュニケーションツール「オンラインホワイトボード」も導入しています。グループワークの中で、他社（他業種）の考え方にふれ、新たな気づき生まれ、それを自分の研究開発活動に生かせることも狙いとしています。



講師講義



グループワーク

受講者の声



戸田建設株式会社
技術研究所
環境創造部 地球環境課
主任 大島 佳保里

技術研究所に配属されて10年ほどが経ち、数名のチームを先導して研究開発を行う機会が増えてきました。今まで通り専門性を高めていくだけではいけない、これまでよりも視座を高くして研究開発を進めていくにはどうしたらよいかと考えていた時に、研究開発人材育成プログラムに参加する機会をいただきました。

毎回の先生方の講義では、具体的な研究開発の進め方や苦労話、部下や後輩への指導方法などについてお話を伺い、インターネットで調べたり、本を読んだりだけでは得られない気づきが多くありました。また、今後の研究開発に役立つヒントを得ることができ、非常に勉強になりました。

講演後のグループワークでは、同じ課題であっても様々な切り口があることに改めて気づかされ、自分の視野を広げるきっかけとなりました。

また、懇親会では、参加者との交流を深めることができました。コロナ禍も相まって社外の方との接点が減っていた私にとって、このような人脈形成の場の機会が得られたことは、今後の研究開発に生きてくるだろうと感じています。

最後に、このような場を提供してくださったCBRDの方々と受講者の皆様に改めてお礼申し上げます。

研究開発人材育成プログラム (MOT 半日コース)

◆概要・目的

「研究開発人材育成プログラム (5日間コース)」のカリキュラムの中で、「MOT (Management of Technology 技術経営)」は受講者からの評価が非常に高く、会員からのニーズに応えるために、MOT に特化した半日コースとして設けております。MOT について著名で著書も多数出版している、出川通氏 ((株) テクノ・インテグレーション) を講師にお招きし、以下の目的で実施しています。



出川先生


- 1) 過去の人材育成プログラムのカリキュラムの中で、受講者の評価が高かったMOTの講義を一部の受講者のみならずもっと多くの正会員の皆様に受講して頂く
- 2) 現行の5日間コースでは人員や業務の都合で参加出来ないため、当プログラムの内容を良くご存知ではない正会員の皆様に、その良さを認識して頂き、今後のご応募のきっかけにして頂くと同時に、多数の正会員の皆様に参加可能な機会を提供する
- 3) 従来のコースでは時間の制約で、講師が用意した内容を全て消化出来ず、講師・受講者とも不満が残ったと思われることから、十分な時間を確保することにより、それらを解消して頂く



講義風景

■講義プログラム (2023年度)

スケジュール	
13:30 ~ 17:30	
テーマ	
「最新の日本の実践MOT紹介」 ～新規事業を成功させる基礎と実践の方法論と事例紹介～	
内容	
1.	ライフサイクルとMOT、技術をどのように生かして、守るか
2.	見えない市場(顧客価値)をどうつかむか
3.	ロードマップとその活用を考える
4.	オープン・イノベーション時代の発想・意識の転換
5.	人材育成と起業家精神
まとめ	今後の実践MOTの活用と展望



令和5年度研究開発人材育成「MOT半日コース」配付資料23-05

「最新技術マネジメント:実践MOT紹介」

～イノベーション実現への基礎と実践の方法論と事例～

2023年5月19日

(株)テクノ・インテグレーション
代表取締役社長

出川 通(てがわ とおる)
degawa@techno-ig.com

2023/10/18©Techno Integration Co.1

◆受講者の声 (アンケート結果)

- ・ MOTに接したのは初めてだったが、成功例・失敗例などの経験談を交えて頂いたので身近に感じる内容であり、非常に分かり易かった
- ・ MOTでは研究→開発→事業化の展開と売上高の関係やプロダクトライフサイクルを示して頂けて参考になった
- ・ 半日集中的に講義を受け、MOTの全体像をつかむことができた

◆次年度計画 (予定)

(MOT半日コース)

- ・ 定員：会場：40名 (オンライン併用)
- ・ 資格：正会員
- ・ 参加費：無料
- ・ スケジュール：2024年5月
- ・ 研修会場：晴海トリトンスクエアZ 棟4階講演室
- ・ 研修時間：13:30 ~ 17:30
- ・ 募集時期：2024年3月上旬予定

(5日間コース)

- ・ 定員：15名 (1回の研修プログラム) × 2回 合計30名
- ・ 資格：正会員
- ・ 参加費：無料
- ・ スケジュール：第1回 2024年6月～7月
第2回 2024年9月～11月
- ・ 研修会場：晴海トリトンスクエアZ 棟4階講演室
- ・ 研修時間：13:00 ~ 17:30
- ・ 募集時期：2024年3月中旬予定

研究企画ミーティングの紹介

◆概要

研究企画ミーティングでは、会員企業や社会からニーズの高い研究テーマを発掘するため、社会や技術の現状、将来の課題等について、建築研究所等の研究機関を中心に、会員の皆様と意見交換を行っています。また、議論された研究テーマを研究会や共同研究開発等へ展開していくことを活動の狙いとしています。本ミーティングで扱うテーマは、構造、環境、防火、建築生産、材料、住宅・都市といった様々な技術分野が一巡するよう、建築研究所から毎年提案されています。本年度は以下の通り開催いたしました。

◆2023年度研究企画ミーティング

「住宅・建築物のカーボンニュートラルの推進」

【日時】(第1回)2023年6月19日(月)14:00-16:30

(第2回)2023年9月27日(水)14:00-16:30

【開催方法】対面開催(晴海トリトンスクエアZ棟4階講演室)

【参加資格】正会員、準会員であり、住宅企業、エネルギー企業、素材企業など幅広い分野において、カーボンニュートラルに関して取り組み、建築物や住宅における省エネ対策や再生可能エネルギーの活用について関心のある実務者や研究開発担当者

◆開催内容

	内容	
	第1回	第2回
1	【主旨説明】桑沢 保夫氏(建築研究所・環境研究グループ長)	
2	【課題整理】佐瀬 毅氏(建築研究所・環境研究グループ)	【カーボンニュートラルに向けた東京ガスの取組】西田 裕道氏(企画部 エネルギー公共グループ)
3	【三菱電機が目指すカーボンニュートラル実現に向けた家庭用設備を活用した再エネソリューションの提案】小島 生正氏(電材住設スマート事業部電住CN&LCSプロジェクトグループ)	【ミサワホームのカーボンニュートラルへの取り組み】梅村 啓志郎氏(ミサワホーム総合研究所カーボンニュートラル技術研究室)
4	質疑応答、研究会立ち上げに対する総合意見交換、今後の進め方審議 等	

建築・住宅技術アイデアコンペの提案募集

1. 概要

本年度も「建築・住宅技術アイデアコンペ」は、建築・住宅技術に関する研究開発テーマのアイデアを募集しています。研究開発テーマの提案は、建築・住宅技術に関連する内容であれば、特に分野は問いません。優秀な提案に対しては審査のうえで表彰し、副賞も用意しています。幅広い分野で多数の提案を期待します。応募の詳細については、連絡担当者の方にお問い合わせいただくか、6.に記載したホームページをご覧ください。

2. 募集分野、テーマ

デジタルトランスフォーメーション(DX)、生産性向上、快適性や居住環境、防災、安全や災害対応、脱炭素社会などの環境問題解決やSDGs達成、地球規模のリスク回避のための「新しい生活様式」、社会課題解決に向けた政策、制度や社会システム、国際競争力を高める技術の規格、標準化や基準づくり、その他将来の建築や住宅に関する提案

3. 提案応募資格

正会員、準会員、学会会員

※但し、一般の法人、又は現職大学教員の方も、入選後の入会を条件に応募できます

4. 応募期間

2023年10月2日(月)~2024年1月5日(金)17:00まで

5. 提出先

idea@conso.jp までメールにより提出

6. 応募要領の詳細

<https://conso.jp/news/dtl.php?newsSEQ=888>

7. 表彰副賞

- ・最優秀賞：総額20万円
(研究会支援費加算と図書カードに配分可能)
- ・優秀賞：総額10万円
(研究会支援費加算と図書カードに配分可能)
- ・審査員特別賞：3万円(図書カード)
- ・佳作：2万円(図書カード)
- ・参加賞：1万円(図書カード)

8. 過去の受賞作品

歴代のアイデアコンペ入賞作(第1回~20回)をホームページで公開致しております。



新会員紹介

(※入会順)

準会員

- ・BASF INOAC ポリウレタン 株式会社
代表者：諸橋 雅彦
所在地：愛知県新城市川田字本宮道1-196
- ・エスケー化研 株式会社
代表者：藤井 実広
所在地：大阪府茨木市中穂積3-5-25

学会会員

- ・小浦 孝次氏 CHラボ

- ・アキレス 株式会社
代表者：日景 一郎
所在地：東京都新宿区北新宿2-21-1
- ・大建工業 株式会社
代表者：億田 正則
所在地：大阪市北区中之島3-2-4

CBRD News Letter 51号

発行日：2023年11月30日

編集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会

発行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンスクエア Z棟 4階

TEL: 03-6219-7127

FAX: 03-5560-8022

E-mail: conso@conso.jp(代表) Home Page: <https://www.conso.jp/>